

(1) 指標試案の全体的的事項に係る意見

【総論】

・環境指標の説明(定義)意義・性格・効果等についてもっと分かりやすく記述して欲しい。

・指標による目標設定や評価方法の考え方について今後とも検討して欲しい。

・環境指標は唯一のものではなく相対的位置とベクトルがおおむね妥当であれば多くの指標が成り立つ。多くの指標群から、試案の指標を選択した理由としては、その指標を用いることにより具体的に期待できる効果がある、又は現計画策定時においてその指標がないために計画策定に支障があったことなどが考えられるが、実例で示していただきたい。またこれらの実例から、環境基本計画を管理、見直ししていく上で求められる指標の持つべき機能とはどのようなものか。

【R指標】

・R指標はほとんど示されていないが、基本計画に示す個別課題の既存目標は、R指標になり得ないか。一方、現状の負荷は対策を講じた結果を考えれば、R指標は折り込み済とも言える。今後指標をまとめる上で補う必要があると考えている部分はどこか。

・国が今後R指標を検討される際には、目標値に環境の状態を表す数値を置くよりも D/D' (対策を行わなかった場合の負荷量と比べて、対策を講じた場合の負荷量は何割になった)という形で表す方法もあり得るのではないか。

・環境負荷要因別の環境負荷量及び低減化による施策効果とそのためのコストについて指標化を検討して欲しい。

【総合化】

・今後環境基本計画の長期的目標の達成状況の点検にどう利用するのか

今後必要とされる内容が多数あり、すぐには使えないのではないか。

総合的指標とはいいつつ特に循環については、個別項目の実績の集計であり、環境白書の各項目の現況と同じになるのではないか。

・「指標群」は単なる「指標」に比べどのように「総合的」なのかがわかりにくく感じられる。今後、具体的には、報告書 -1-(3)の作業が更に進められるものと思うが「総合性」という視点を常に念頭に置いた説明を期待する。

・オランダの例やLCAの例のように、重みづけを行った総合的環境指標(例えば、4つの長期目標毎)を試作すべきではないか。

・総合的環境指標として、重みづけ、総合化して欲しい。

・物質のフローでどのような施策を求めているのかが明確ではない。例えば鉄、アルミどちらを重点的に取り組むのか重み付けが必要なのではないか。

また、国際比較のやり方も検討していく必要がある。

・国の役割として、国際比較をできるような集約化の仕方が必要。

・本指標には、農業、水産関係の観点からの指標がない。窒素循環の観点から考えれば、日本は窒素を過剰に輸入して、途上国から資源を搾取しているという事実がある

【活用方策】

・指標から対策へのフィードバック(特に総物質投入量などの総合化された指標について)が可能となるような「指標の活用方策」「指標化プロセスの共有化」についての検討もなされるべきである。(例えば、総物質投入量が示された場合、どの物質をどの程度優先的に削減すべきなのかということが明らかになるのか。

・国が総合的環境指標成案を作られる際には、指標を用いての進捗状況の評価の部分までモデル化して欲しい。

【その他】

・エネルギー消費量、大気汚染、水質汚濁等の指標に直接的な影響を与えると考えられる気象データ（降水量、気温等）を考慮した指標についても検討する必要があるのではないかと。

・各指標間の関係について、エネルギーとCO2の指標において、CO2とエネルギー使用は密接な関係にあるが、その関連を考慮して指標を評価する必要あり。

・健康被害の改善状況などの指標も加えるべきではないか。（人間の健康被害と関連の大きい分野については、環境指標は健康被害の改善という目標に対しての中間的な指標となると考えられるので、本来の目標達成にどの程度寄与しているのかという点が明らかになるような指標が必要。

（２）「循環」に係る指標

【物質のフロー】

・物質循環の効率を向上させることが重要と思われるが、その観点からの評価はできないものか。（例えば、リサイクルに使われるエネルギーや物質の量や循環の空間的又は時間的な大きさを表すものなど）

・グリーンGNPは総合的環境指標の対象にはならないのか。総物質投入量とグリーンGNPの双方で評価する方法もあるのでは。

・「総物質投入量」がなぜ循環指標なのだろうか。投入量は変わらなくても、循環していればいいのではないかと。

また、リサイクルに回る量が同じであっても、リサイクルのために廃棄された物を遠くまで運べば、それはそれで、環境への負荷になる。

より小さなエリアでのリサイクルを良しとするような指標は考えられないか。

・窒素、リン、塩素循環に係るフローが必要。

【エネルギー】

・太陽エネルギー等の利用について評価に加えて欲しい。

・原子力発電の扱いはどうなるのか。

・指標値の目標評価はどうなるのか。

【水循環】

・水循環については、流域毎に見る必要がある。宮城県の場合も流域毎に行おうとしたが、県全体になってしまった。

・自然循環指標は、浸透量の評価なのか、能力（浸透能）の評価なのか。

・個別指標における10段階評価の意味と総合化の方法はどうなるか。

・評価対象規模（範囲）はデータが整理されれば流域単位が適当ではないか。

・水循環においては、河川水の水量確保も重要と考えられることから、都市用水のヴァージンウォーターの使用量も指標として考えたらどうか。

・健全な水循環の確保に着目した指標群において地域別の指標群を集約することにより、全国ベースの指標群をとりまとめる場合、地域において、把握していないものの対応は？

【地球温暖化】

・D指標は「全人類が平等であるという前提で」との考えであれば、国レベルの数値県・市レベルでの数値と違う値でいいのか。

・S指標「気温」 ヒートアイランドやエネルギー使用量の年変動について、説明指標としては有用。

【オゾン層破壊】

日本におけるオゾン全量を参考指標としているが、直接人体に影響を及ぼすものもあるので、参考指標ではなくS指標として国民に公表することが望ましいと思われる
また有害紫外線量についてはS指標の参考指標として取り入れて欲しい

【酸性雨】

・降水中のpHは酸性雨の状況を示す指標として、分かりやすい指標であり、国民に公表することは意義あることと考えられるので、参考指標ではなく、S指標に加えて欲しい。

【光化学オキシダント】

・人口重みづけをする必要性は何か。（騒音の暴露人口と同様な考えであれば分かりやすいですが）P27のNO2,SPNについても同様。

【有害大気汚染物質】

・D指標について総合的環境指標試案なしとしているが、排出に係るデータの整備はなされていないが、有害大気汚染物質排出量を踏まえ、何らかの指標化を検討して欲しい。

【水環境の保全】

・油汚染事故等環境に影響を与える事故についても指標化（事故件数、被害規模等）する必要があるのではないかな。

・公共用水域の汚濁等の指標として、上水道の浄化処理コストを指標とすることを検討してはどうか。

・廃棄物 廃棄物が環境に与える負荷は発生量ではないか。廃棄物の発生量についてどう考えられるか。

【化学リスク】

・有害廃棄物及び化学物質の環境リスク対策についても、将来の総合化を課題としつつも、個別の指標を提示すべきではないか。

（３）「共生」に係る意見

・アメニティに関する指標を検討する必要があるのではないかな。

・生物多様性にかかる指標について更に検討して欲しい。

（４）「参加」に係る意見

・国においても、地域においても「市民・企業・行政のパートナーシップ」による取組の推進が不可欠である。そこで「参加と協働」「自律と率先」「協調と連携」等につながるソフトづくりの柱となる指標について検討してほしい。